



今号は病院長に平成30年度病院として推進していく事業について寄稿いただきました。

新年度に病院として推進していく事業

新年度も徳島大学病院は、病院の理念、目標に基づいて特定機能病院としての使命を果たすべく、職員一丸となって安全な高度医療の推進、真に機能するチーム医療の実践に邁進する所存ですが、いくつか新しい事業についてご紹介します。

1. “阿波あいネット”の本格的運用

昨年から徳島県全域医療介護情報ネットワーク（阿波あいネット）構築の事業を展開し、主な施設で患者・住民登録を行ってきましたが、4月からはいよいよ本格運用を行い、実際に登録している患者の医療情報（病名、処方など）を、参加施設間で共有し参照できるようになります。職員の皆さまには引き続き全患者を登録しつつ、個人情報保護に最大限の注意を払い正しく運用いただきますようお願いいたします。

2. 優しい病院づくりをめざした環境整備と文化的事業の推進

新外来棟前の旧外来診療棟跡地に障害者専用駐車場が拡充整備され、隣の県立中央病院との壁も完全に撤廃されます。バス乗り入れのためのロータリーも整備されますので、実際にバスが運行することになって両病院の中間地点のバス停が利用されることになれば、本院を受診する患者や家族、職員の交通にとって大変便利となり、本院駐車場の混雑解消や外来待ち時間短縮にもつながり、患者満足度の向上が期待されます。

昨年来、患者や家族、職員の癒しのために外来アメニティーテラスでのコンサートによる音楽療法、ギャラリーbeの新展示企画などを行ってきましたが、本年度もさらに充実を図り、新たに文化的なトークなども取り入れ、病院内外に安らぎの空間や癒しのイベントを提供したいと思います。

そのほか電子クリニカルパスの一層の充実と恒常的運用、病床の弾力的かつ効率的運用、診療報酬改定に対応するプロジェクトチーム結成や新しい臨床研究法対応、先進医療の推進、医療安全文化の醸成、倫理教育の普及なども行っていくしますので、協力をよろしくお願いいたします。

病院長 永廣 信治



このコーナーでは、病院でとりくんでいる様々な事業を紹介します。

国際医療センターについて

国際医療センター長の呼吸器・膠原病内科の西岡です。

国際医療センターは平成29年4月1日に設置された徳島大学病院の新しい部門です。

「国際医療」とは、日本国内に訪れた外国人に対する医療（インバウンド）や海外に対して行う医療支援（アウトバウンド）のことです。世界一の長寿国を支える日本の医療に対して海外からは国際貢献が求められています。そして大学病院には、地域の基幹病院であるとともに地域の「国際医療」の拠点病院としての活動が求められています。

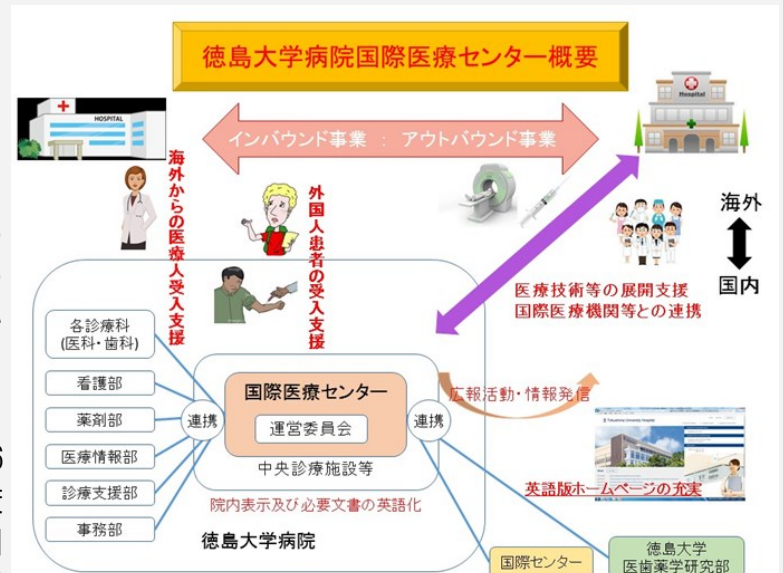
国立大学附属病院長会議の将来化実現ワーキンググループの一つに国際化プロジェクトチーム（PT）がありますが、徳島大学病院は国際化PTの委員を担当し、平成28年6月に作成された国立大学病院の将来像～現状と展望～「グランドデザイン2016」の策定にも参画しました。この中でまとめられた国際化PTの提言に国立大学附属病院に国際医療部門を設置するという項目があり、その提言に沿って徳島大学病院に国際医療センターを設置することとなりました。

現在国際医療センターでは、院内の国際化（院内表示の英語表記、英語ホームページの充実等）に取り組むとともに、インバウンドに対する診療体制の整備を進めています。また時を同じくして始まったJICAの「モンゴル国日本モンゴル教育病院運営管理及び医療サービス提供の体制確立プロジェクト」に愛媛大学病院とともに精力的に取り組んでいます。簡単に言うとモンゴル国立医科大学に初めて建設される附属病院の運営指導を行うというプロジェクトで、医療関係者が相互に現地を訪問する形で指導を進めています。

設置と同時にたくさんの仕事が始まった感があり、まだまだ十分な結果は出せてはいない状況ですが、医療スタッフおよび事務部門の方々の協力で少しずつ徳島大学病院の国際化を進めています。国際標準を目指すことは必ず地域医療の拠点としての病院機能の充実にも直結すると考えています。

院内の各診療科ならびに部門の担当者の方々には今後もお世話になることが多々あると思いますが、引き続きご協力いただきますようお願い申し上げます。

国際医療センター長 病院長補佐（国際交流担当） 西岡 安彦



ウランバートルの日本モンゴル教育病院建設現場視察にて

NEWS・イベント大募集！

「Harmony」は、病院職員を対象に、院内情報の伝達や職員のコミュニケーションの活性化などを目的として発行しております。行事やイベントなどのNEWSや院内で周知してほしいTOPICSなどがありましたら、どんどん病院総務課広報・企画係（bsoumuss1@tokushima-u.ac.jp）までお寄せください。また、「Harmony」で取り上げたら良いと思うテーマなど、ご意見・ご提案もお待ちしています。



病院新採用職員の紹介 このコーナーでは平成29年度採用の職員を紹介します。

クリニカルアナトミー教育・研究センター 整形外科 殿谷一朗特任講師



このたび、ニューヨークのマンハッタンにある、全米で1番の評価を得ている整形外科専門の病院Hospital for Special Surgery (HSS)の足の外科部門での約1年半の留学を終え、2016年8月より徳島大学に復帰し、足の外科を担当しています。足のスポーツ傷害、外反母趾、変形性足関節症、扁平足などに積極的に手術を行っていますので、ご紹介いただければ、精一杯患者様に喜んでいただけるように頑張っていきたいと思います。

また、2017年4月よりクリニカルアナトミー教育・研究センターの特任講師を拝名致しました。同センターは大学研究の一端を担っています。魅力あるキャリア形成に貢献できる同センターは、献体という医歯学への貢献という尊い御遺志のもとに成り立っており、今後も引き続き教育、研究を行っていく所存ですので、御支援賜りますようお願い申し上げます。

消化器内科 近藤由香医員



平成29年4月から徳島大学病院消化器内科に入局した近藤由香と申します。

兵庫医科大学を卒業後は、徳島赤十字病院での初期研修を経て、徳島大学病院消化器内科に入局しました。

現在は内視鏡検査や、内視鏡での処置の介助、肝疾患に対する処置の介助や病棟業務などを行っています。また、平成29年度の第108回日本消化器病学会四国支部例会にて、日本消化器病学会 四国支部研修医奨励賞を受賞させて頂きました。

知識や経験もまだまだ浅く、高山先生をはじめ多くの先生方にご指導いただきながら日々過ごしております。少しでも早く一人前の医師として成長できるよう精進していきますので、今後ご指導のほどよろしくお願いいたします。

口腔外科 中川貴之助教



2017年4月より本学口腔外科学の助教に着任しました、中川貴之と申します。平成15年3月に本学歯学部歯学科(歯21期)を卒業し、東京医科歯科大学、広島大学で口腔外科臨床、研究および教育に従事しておりました。卒後15年を経て、縁あって母校へ戻ってまいりました。現在は口腔外科臨床の合間をみながら、薬剤関連顎骨壊死に関する研究を行っています。休日は病棟患者を抱えている関係もあってなかなか遠出は難しい状況です。まだまだ若輩者であり、未熟な限りですが精一杯頑張っておりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

病理部 松本穰医員



平成29年4月より病理部に入局いたしました、松本穰と申します。学生実習の際に病理部でお世話になってから病理診断に興味を持つようになり、徳島県鳴門病院で2年間の初期研修を修了したのちに、病理部に後期研修医として入局しました。

自分が病理を進路として選んだのは、顕微鏡というツールを通じて、疾患の病態を実際に目で捉えることができる点に魅力を感じたからです。しかし、病理診断においては、プレパラートの上にある所見を正確に読み取るのはもちろんのことですが、その所見を臨床の先生方に的確に伝えることも非常に重要で、その難しさを日々実感しています。そこもまた病理診断のやりがいの1つだと思います。

まだ至らない点多々ありますが、本年度から後期研修2年目としてより一層精進して参りますので、今後ともよろしくお願い致します。

西病棟6階 阪本朋香看護師



2017年4月より徳島大学病院へ入職し西病棟6階に配属となりました。当病棟は、呼吸器・膠原病内科であり、主に、肺の悪性腫瘍に対する化学療法・放射線治療、間質性肺炎・呼吸器感染症に対する酸素療法や人工呼吸管理、全身性エリテマトーデスなどの膠原病に対するステロイド治療などが行われており、治療が安全・安楽に実施されるように看護を行っています。清潔ケア後の患者さんの笑顔や「ありがとう」という言葉に励まされ、やりがいを感じています。

仕事だけではなく、休日にも有意義な時間を過ごし、映画を見に行ったり先輩方とご飯に行ったりしています。まだまだ不安や戸惑いを感じる日々であり、休日まで私のことを気にかけて頂ける先輩がいることに心強さを感じています。患者さんには丁寧接しながらも詰所ではテキパキと働く先輩方の姿を見ながら、師長をはじめ、先輩方の様な看護師に私も早くなりたいと思っています。学生時代から専門看護師に興味があるため、将来は自分の目標を達成したいと考えていますが、まずは目の前のことを精一杯頑張ることから始めようと思っています。先輩方の指導を吸収しながら日々成長していけるよう今後も努力を重ねていきます。

診療支援部 湊晶帆歯科衛生士



2017年4月より入職した歯科衛生士の湊晶帆です。

徳島大学病院での歯科衛生士の業務は、診療補助、歯周管理、周術期口腔ケア、患者指導など多岐にわたり、様々なところで患者さんの健康をサポートしています。私の所属する歯科では、保存科・補綴科の2科で構成されているため、実習生が多く大変な部分もありますが、かつて自分が学生だった頃、先輩歯科衛生士の働く姿を見て“あんな風になりたい！”と憧れていた気持ちを思い出します。私は開業医で2年勤めていた経験がありますが、まだまだ未熟であるため、先輩方のご指導のもと更なる高みを目指して、認定試験などにも挑戦し、専門性を高めていきたいと思っています。入職して早くも一年近くが過ぎ、かつて私が憧れた歯科衛生士にはまだまだ程遠いですが、尊敬できる先輩歯科衛生士の皆様に「追いつき追い越せ！」の精神で頑張っていきたいと思っています。今後ともよろしくお願い致します。